

令和 6 年度 第 2 回 健康づくり推進協議会 議事概要

開 催 日 時	令和 7 年 2 月 5 日(水) 14:00 ～ 15:30
会 場	全国健康保険協会新潟支部 会議室 1.2
出 席 委 員	飯濱茂委員、加藤公則委員、清田義和委員、玉木朋人委員、野口政男委員、藤井義文委員、森田裕介委員、村山敏夫委員〔五十音順〕
議 題	1.協会けんぽ新潟支部の第 3 期データヘルス計画について 2.全国健康保険協会新潟支部健康づくり推進協議会要綱の改定
議 事 概 要	○資料に基づき説明 ～ 意見交換 ～ ◆ 協会けんぽ新潟支部第 3 期データヘルス計画について 【学識経験者】 データは因果関係が重要である。生活習慣や運動、食嗜好、就寝時間等の因果関係の因を把握する必要がある。どういう生活習慣がこの先にあるのかを示してあげると丁寧な指導につながる。 《事務局》 事業所訪問した際に事業所全体の健康課題が見える事業所カルテを用いることで、どのような取組を行うか話し合っている。問診票等の結果から傾向が見えた後に事業所として、個人として何を取り組むのか提案・相談している。 【保健医療関係者】 特定健診の質問票の回答を事業所別に比較することで、事業所ごとの傾向を見ることができる。それを事業所としての取り組みとして提案できるとよい。 塩分摂取量評価について何かデータを集められるか、事務局で検討してほしい。 【保健医療関係者】 建設業や運輸業の特定保健指導実施率が低い理由は何か？ 《事務局》 1 つ目は、検診車による健診受診が多いため、当日の特定保健指導実施は難しいこと。2 つ目は、勤務形態

の関係で、後日の日程調整が難しいことがある。

【健康保険委員代表】

建設業界では、移動が多く、単身での生活では規則正しい生活が難しい。このような生活の中で健康になる生活習慣の指導があるとよい。

《事務局》

7 年度から建設業への実態把握と協会けんぽとして支援できる取り組みを検討していく。

【行政関係】

健康づくり講座はよい取り組みである。申込数を伸ばすための周知広報で工夫したことはあるか？
質を高めることも重要。健康経営は事業所が主体的に取り組む意識が大事である。この取り組みを広げてほしい。

《事務局》

支部での広報媒体活用、保健指導者の事業所訪問時の周知、各種会議体での周知を行ってきた。

【保健医療関係者】

健康づくり講座受付枠をもっと増やしてほしい。

《事務局》

令和 7 年度は拡大していく。

【事業主代表】

全従業員を集めての DVD 視聴や講座は時間的に実施が難しいが、休憩中に携帯電話で見られる 5 分の短い配信ならば、作業しながら見るができるため、興味を持ち、効果が上がると思う。

【学識経験者】

サービスイリアで体操できる「ハンドルぐるぐる体操」を作成し、今年度スポーツ庁長官賞を受賞した。
関係者とコラボして、広める仕組みを作ってはどうか。

《事務局》

休憩時間等の短い時間でできる運動の動画などを活用していただけるように事業所へ周知していく。

【事業主代表】

健診後の指導を受けた。提供された資料を使って様々取り組んでいたら、私の意識が変わり、従業員の様子も少しずつ変わってきたように感じる。

【被保険者代表】

要望の多かった健康づくり講座は何か。

IT の時代だから、食事・運動・睡眠などの生活習慣と血圧などの数値データを収集して分析するツールがある
とよいのでは。

《事務局》

講座は、肩こり腰痛予防のストレッチ、腸から始める食生活運動習慣、メンタルヘルスの順に多く、ポスター
は、肩こり腰痛予防のストレッチとたばこに関するものの要望が多かった。

本部では、DX の視点で取り組みの検討を行っている。

【事業主代表】

成果を発表する場やペースメーカーみたいなものがないと継続できないので、その点も含め検討してほしい。

【被保険者代表】

今の活動を継続していくことが大事であり、関係団体との連携をしていくとよい。

被保険者の意識を変えることが課題である。特定保健指導は健診直後の実施がよいと考える。

健康づくりポスターをステッカーにして貼るのがよいのでは。

《事務局》

次年度広報は、新潟支部第 3 期データヘルス計画にある「収縮期血圧を 6 年間で4mmHg下げる」ことで、
事業所・加入者自身の健康につながるよう計画している。

特定保健指導実施率促進のためには、特定保健指導該当者本人へ通知を送り、個人でも申込できるように
する。

また、ポスターのサイズを縮小し、ホームページやラインの登録でも見られるようにしたい。

特 記 事 項	
---------	--

次回は令和 7 年 10 月開催予定
